

「古写真」を活かす新しい学問のすすめ

赤澤 威

国際日本文化研究センター

欧米では古写真の存在に早くから注目され、大学、図書館、博物館、美術館、アーカイブズ等で継続的に保存されてきた。しかもその保存理念は、貴重な文化財・歴史的遺産として大切にするという視点にとどまらず、古写真が有する学問的、教育的、社会的価値の大きさと広さを評価し、組織的に収集・保存し、同時に体系的に整理するものであった。

かつて筆者は、世界各地に住み着いていたモンゴロイド系諸民族の顔や文化及びかれらを育んだ自然の姿を過去に遡って探るために、内外の研究機関等に収蔵される古写真調査に取り組み、欧米における古写真に対する評価の高さを実感する機会をもった。具体的には、アメリカのスミソニアン研究所 (Smithsonian Institution, Washington D. C., U. S. A.)、フランスのパリ国立図書館 (Bibliothèque Nationale, Paris, France) および同地理学協会 (Société de Géographie, Paris, France)、イギリスの大英博物館分館人類学博物館 (The Museum of Mankind, The Ethnographic Section of The British Museum, London, U. K.)、ロシアのサンクト・ペテルブルグ人類学民族学博物館 (The Museum of Anthropology and Ethnology, St. Petersburg, Russia)において、大量の古写真が、体系的に整理され、まさに上述の保存理念のもとに優れた学術コレクションとしていきづいていることを知ったのである。

こうした古写真は、時々刻々と変化してやむことのない時の封印された雄弁な証拠物である。そして、それが有する特性、なかんずく、記録性、客観性、瞬時性等の特性によって過去を検証させてくれる古写真は、専門的な情報を内包していると同時に、複合しあうさまざまな情報を総体としてイメージさせてくれる包括的な学術資料として機能するものである。言い替えれば、古写真はその専門性に左右されることなく、日本研究に取り組む専門分野の目的、内容、方法に対して柔軟に応えられると同時に、さまざまな専門分野を横断的に連結する包括的な資料群として機能する可能性を秘めている。

とすれば、日本研究に関わる諸分野において古写真が果たす役割は極めて大きいと考えられる。それらを保存管理すること自体も意義深いことであろうし、かつまた、それらを適切な方法でもって広く公開してみせることができるなら、一般社会に対し資する点も大である。すなわち、古写真は文化財、歴史的遺産として尊重されるだけのものではなく、日本研究の一翼を担いうる重要な基盤資料として重視されてよい。ここに古写真資料の現代的意義があり、さまざまな古文書資料と同様、学術資料としてその系統的、組織的な収集と保存につとめることが重要であることがわかる。

ところで、現代社会のように転変著しい文化環境にあつては、古写真を収集することが次第に困難になっているし、ましてや、そうした古写真をもって新たな資料群を形成することなど、事実上、不可能に近い。さらにまた、古写真のほとんどは時間の経過とともに確実に劣化、変質し、放置すればいずれは学術資料としての価値を失うことになる。かといってそれを防ぐためにしばしばとられる一般的な措置、いわゆる隔離保存は古写真の利用価値を失わせてしまうことになる。

そのためにも、古写真の恒常的な保存、劣化した古写真の再生・復元に関する理論と技術開発に取り組むことが急務である。また、既存の写真研究を具体的に検証しながら、多分野にまたがる多種多様の古写真を有機的に活用できる情報環境の創出のために写真資料の電子情報化を実現する理論と技術開発なども併せて推し進める必要がある。

古写真が有する多様な価値を恒常的、恒久的に保全し、古写真に基づく研究を継続的に支援するためには利用者である研究者の自覚はもちろんだが、上述するような技術的方策に関する研究開発が急務であることがわかる。これらの研究は、わが国の日本研究の領域においては模索中であるが、学問が専門細分化したこんにち片手間でできるものではない。平成11年4月、本センターに誕生した「文化資料研究企画室」はまさに、古写真などの研究資料を活かすために必

要な新しい学問領域を企画し、実践する装置である。

すなわち、日本研究に資するさまざまな資料、しかもさまざまな形で流通し、埋蔵され、あるいは消失の危機に瀕している資料を発掘し、考証と評価、整理と保存、公開と利用も含めた諸段階を総合して、国内外の研究者に有用な情報環境の形成と発達をリードするための研究を推進する装置である。今回刊行する写真カタログ『所蔵古写真カタログ―その1』は、当企画室が上述の理念に基づいて取り組んだ最初の研究の一端をまとめたものである。言い替えば、上述の理念のもとに整理したセンター所蔵の古写真資料の基本台帳の第一号である。

当カタログの刊行に先立つ研究の諸段階において、多くの方々からさまざまな援助と協力をいただいた。なかでも、今回取り扱った古写真資料について、その技術史的な意義については次の二人の専門家の評価に基づいている。東京大学史料編纂所が所蔵する古写真等を中核とする新しい情報資源環境の構築に取り組む馬場章（東京大学史料編纂所近世史料部助教授；現東京大学大学院情報学環助教授）、吉田成（東京大学史料編纂所技官）両氏である。両氏の絶大な協力に感謝する。そして、古写真の整理、研究に長年取り組んできた吉田氏からは本カタログの刊行にあたり、古写真の情報化に関するさまざまなテーマについての包括的な論考を原稿としてちょうだいすることとなり、本書に収録することができた。とくに、氏が東京大学史料編纂所が取り組んできた古写真の考証、整理をベースとする古写真の研究の方法と課題については企画室がこれから取り組む古写真の研究にとって貴重なアドバイスであると確信する。

最後に、本カタログ刊行は情報課岸本由紀氏の尽力に負うところ大であることを記す。